

2025年度 第24期 水俣学講義 第1回
2025 年 9 月25 日

「水俣は、一般職員である私に何を教えてくれたか。」

学校法人熊本学園 理事長 目黒純一

記憶の継承



建学の精神 師弟同行 自由闊達 全学一家

熊本学園沿革

- 1942年 財団法人東洋語学専門学校設置
・初代理事長に石坂繁就任
- 1945年 財団法人熊本語学専門学校に改称
- 1950年 熊本短期大学設立
- 1954年 法人名を学校法人熊本学園と改称
- 1954年 熊本商科大学設立
- 1956年 付属敬愛幼稚園設立
- 1959年 付属高等学校設立
- 1994年 熊本商科大学から熊本学園大学へ
- 2011年 付属中学校設立
- 2022年 創立80周年
(2023年創立80周年記念式典挙行)

【自己紹介】

目黒純一（めぐろじゅんいち）

1940年生まれ。

熊本県立熊本高等学校、熊本商科大学
(現熊本学園大学) 商学部商学科卒。

1963年熊本振興株式会社入社。

1967年熊本商科大学・熊本短期大学事務局に入職

総務部長、事務局長、学校法人熊本学園常務理事などを経て2015年より学校法人熊本学園第9代理事長。

約60年間、熊本学園と共に歩んでいます。

水俣との出会い①

- ・ 1945年 日本窒素肥料がアセトアルデヒド、酢酸工場の排水を無処理で水俣湾へ排出。
- ・ 1954年8月1日『熊本日日新聞』が「ネコ100余匹が次々と狂い死にした」と報道。
- ・ 1956年5月1日 水俣病公式確認

- ・ 1956年 熊本高校1年の思い出。

音楽部男性合唱グリークラブの夏の合宿（熊本県葦北郡津奈木村赤崎小学校）

みんなで泳いだ海。美しい風景に感動した海。

美しい海であると疑いもしなかった高校生たち。

「美しい不知火海を汚したのは誰だ。」

⇒私にとって、水俣の事件を知るきっかけの場所になったのが、津奈木村赤崎。

思い出の海 津奈木村立赤崎小学校にて（１９５６年）



～当時、買ってもらったばかりの二眼レフで撮影～



※旧赤崎小学校：日本で唯一、海の上に建てられたとされる小学校の跡地で、現在はアートプロジェクトの場として利用されています。

弱者に寄り添って

私自身は、母親の仕事の都合で、
20年近く福祉施設母子寮で生活。
YMCAでのボランティアも経験。
「弱者に寄り添う事」を当たり前に生きてきた。

母子寮前で子ども達と。

子ども達に寄り添って。
～YMCAボランティア～



水俣との出会い②

- ・ 窒素幹部、工場長との出会い。
- ・ 山下新日本窒素労働組合執行委員長との出会い。

・ 原田正純先生との出会い。

- ・ 北古賀勝幸理事長、角松正雄学長のもと、原田正純熊本大学医学部助教授を熊本学園大学社会福祉学部教授に招聘。

⇒ 「水俣学」開講、水俣学研究センターの設置

人権より経済が
優先され、
行きついた先が、
水俣病だった。

法人として、水俣学研究セン
ターをいかにして支援するか。

水俣学研究センター

- ・ 1999年 原田正純先生が社会福祉学部教授として着任。
- ・ 2002年 「水俣学」（2単位）開講
※水俣病を中心とした大学の正式授業としては本邦初。
- ・ 2005年 文部科学省「私立大学学術研究高度化推進事業 オープンリサーチ・センター整備事業」選定。
- ・ 2005年4月 高度学術研究支援センター、水俣学研究センター開設。
- ・ 2005年8月 水俣学現地研究センター開設。

⇒法人職員として何ができるか。共に考え、奔走した日々。



～水俣学研究センターの活動・研究を支えて～

最後に

- ▶ 水俣は、一般職員である
私に何を教えてくれたか。

ご清聴ありがとうございました。